

大学院文学研究科

学修の成果の評価及び修了の認定の基準

学修成果の評価

弘前学院大学大学院学則第14条に基づき、成績の評価は、各授業科目について、優、良、可、不可の4種類の標語をもって表わし、これらのうち、優、良、可を合格とする。

課程修了要件と学位授与

弘前学院大学大学院学則第15条に基づき、修士課程の修了要件は、本大学院に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。課程修了の認定は、同学則第16条に基づき、研究科委員会の議を経て学長が行う。本研究科の修士課程を修了した者には、同学則第17条に基づき、修士（文学）の学位を授与する。

履修基準

履修の基準は以下の通りである。

- ① 課題研究Ⅰ、課題研究Ⅱ——8単位必修
- ② 自己の所属する指導教員の「特論」、「演習」は、計4単位必修
- ③ 指導教員の「特論」、「演習」必修の他に、「特論」を2科目（4単位）、「演習」を2科目（4単位）必修
- ④ 修了必要単位数は30単位

修士論文および学位

修士論文及び学位についての基準は以下の通りである。

- ① 修士論文は、各専門に関する主題で、(A)地域の文学・文化、(B)日本文学・日本語学の発展に関わる学術論文とする。
- ② 研究科に2年以上在学し、所定の授業科目について30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文を提出し、その審査および最終試験に合格した者には、「修士（文学）」の学位を授与する。

修士論文の査定と合否

修士論文の成績評価は、提出論文の評価と面接による口頭試問の結果によって総合的に評価する。すなわち、論文評価得点30点以上、面接試問得点30点以上を必須条件として、最終的に修士論文の合否を決定する。

(1) 論文の査定基準

論文の査定は、以下の10項目に関して重点的に審査する。論文の評価は以下の10項目についての5段階評

定方式による。総点を50点満点として、30点以上を合格域にする。

- ① 論文題目についての問題意識、仮説、研究目的、研究目標が明確である。
- ② その研究方法・手続きが明確である。
- ③ 資料処理、結果の考察が行き届いており、適切妥当であると思料される。
- ④ 文章作成の完成度、文章の整合性、文章内容の明晰さ、論文構成（起承転結など）の確かさ。
- ⑤ 新しい問題の指摘や問題提起がなされている。
- ⑥ 適切な文献引用、注釈が手際よくなされている。
- ⑦ 代表的な著書・論文や代表的な理論、最新文献の引用・参考の提示がみられる。
- ⑧ 研究の着想の斬新さや新しい発見などの研究的価値が十分に認められる。
- ⑨ 研究史的視座、将来の展望が明確である。
- ⑩ 結果の解釈、説明の適切さ、総括的検討、今後の展望がなされている。

(2) 修士論文に関する面接試問

修士論文の面接試問は、主として論文に関係する事項について行う。関連して研究者としての資質、パーソナリティと態度などの印象も参考にする。

面接試問の評価は、以下の10項目についての5段階評価方式による。総点は50点で、30点以上を必須条件として合格域にする。

- ① 研究計画の説明・表現力に関して研究計画の内容を簡潔に話せる。
- ② 研究目的、具体的目標を即座に陳述できる。
- ③ 結果を簡潔に陳述できる。
- ④ 聞きやすさと分かりやすさ、話の間のよさ、説得力のある話し方と顔面表情。
- ⑤ 謙虚で誠実な傾聴態度がみられる。
- ⑥ 質問に対応する応答、フィードバックする能力（自己の研究計画の不十分な点や残された問題の気づきと指摘など）
- ⑦ 研究者としての志向性と態度に関して研究活動・学問への情熱、意欲がみられる。
- ⑧ 研究に取り組む際のねばり、こだわり、ひたむきさがある。
- ⑨ 問題意識水準の高さと問題中心の思考態度、思考内容のまとまり具合。
- ⑩ 問題処理過程での分析、総合力と思考水準の高さ、思考の深まりと意識の清明さ。

大学院文学研究科修士論文様式については、以下の通りである。

1. 黒のペンまたは、ワープロを使用すること。
2. 枚数は、400字詰め原稿用紙80枚程度以上であること。
3. 部数は3部で、1部は原本とし、2部はコピーでもよい。